

令和元年度

関市総合教育会議

会議録

(令和元年12月20日)

関市

令和元年度関市総合教育会議

1 日 時

開会 令和元年12月20日(金)午後 4時
閉会 令和元年12月20日(金)午後 5時11分

2 場 所

関市役所 3階 庁議室

3 構成員で出席した者

市長	尾 関 健 治
教育長	吉 田 康 雄
教育長職務代理者	奥 村 陽 子
教育委員	田 中 彰
教育委員	足 立 司 郎
教育委員	井 藤 さやか

4 説明のために出席した者

教育委員会事務局長	北 瀬 美 幸
教育総務課長(会議録書記)	水 野 一 生
学校教育課長	加 藤 敬 仁
学校教育課主幹	平 田 昌 隆

5 出席した事務局職員

教育総務課課長補佐	酒 向 希久子
-----------	---------

6 傍聴者

なし

7 協議事項

- (1) 全国学力・学習状況調査における分析結果について
- (2) 熱中症対策(学校行事の時期の見直し)について
- (3) その他

議事内容(概要)

○北瀬教育委員会事務局長

定刻となりましたので、ただいまから令和元年度関市総合教育会議を開催いたします。はじめに、尾関市長からごあいさつをいただきます。

○尾関市長

こんにちは。総合教育会議の開催ということで、お忙しい中ご出席いただいたこと、併せて教育委員の方には常日頃から関市の子どもたちのためにお力添えをいただいておりますことに関し、改めて感謝を申し上げます。

井藤委員におかれましては、5年近くにわたり、教育委員を務めていただきましてありがとうございます。また今後も関市の子どもたちのためにお力添えいただけるとありがたいと思っております。

関市の取り組みについては、また後ほど説明があると思いますが、特にICT教育、STEAM教育に力を入れていこうということで、私自身の思いでもあるのですが、民間企業の内外における皆様のご協力もいただきながら、座学だけでは子どもたちになかなか興味をもってもらえないので、体験を通じて関心を深めてもらえるような取り組みを今、行っているところです。先般、国の方で「児童生徒1人1台のパソコン・タブレット」という大きなニュースが出ておりましたが、実は市役所の中の会議でも1人1台の端末をとという話は出るのですが、金額を計算しますととても大きな金額になるものですから、大切ではあるのですがなかなか一度には難しいということで徐々に増やしていく方向だと協議をした少し後にこのニュースが出ましたので、国として大きな施策を進めていこうという流れが出ていますので、関市にとってもうれしい方向性だと思っておりますし、その波にしっかりと乗っていきたいと思っております。ただ、先般、社会派ブロガーのちきりんさんという方が書かれた文章を読んでいたならば、パソコンは生産端末、タブレット・スマートフォンは消費端末ということが書かれていました。お金を稼ごう、物をつくりだそうということだとタブレットではなくパソコンが生産的で何かをつくりだす端末であり、タブレット・スマートフォンは便利ではあるのですが、どちらかというところ、来た情報を消費する端末であるということが書かれていました。学校の授業を見に行きますと、教室では電子黒板を含めタブレットによって子どもの理解が進んでいいなあと思っておりましたが、この考え方でいくとやはりパソコンが必要かと思われましたので、議論の材料のひとつとして話をさせていただきました。

今日は、「全国学力・学習状況調査における分析結果について」、「熱中症対策（学校行事の時期の見直し）について」を議題としてあげさせていただいておりますので、いつもと同様に忌憚のない意見交換ができればと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○北瀬教育委員会事務局長

ありがとうございます。続きまして、吉田教育長からごあいさつをいただきます。

○吉田教育長

教育委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

市長さんにおかれましては、私を含めまして教育委員との教育課題につ

いての意見交換の場を設けていただきましたことを厚くお礼申し上げます。

さきほどの市長さんが話された、パソコンが生産端末、タブレット・スマートフォンが消費端末という話を聞いて少しドキッとしました。ご承知のとおり、児童生徒1人1台の端末という時代が令和5年度を目途に日本の小中学校に導入されるということですが、子どもたちが端末を使って授業を受ける、授業を行うと言いますか、今度はそれでそれぞれ個人に応じた一番最適な授業を行っていきますと、個人の必要性に応じた進度に沿って先生が授業を組み立てていくわけですので、そこに先生がアドバイスをしていくと子どもたちは落ちこぼれていくことがないということになり、個人のそれぞれの進度・能力に合った勉強ができることになりますので、今より先生の数が必要でなくなるといったことを国は描いているようですが、5年後・10年後に本当にそうなっているのかわかりませんが、それでいいのかという問題も含めて考えなければいけないと、STEAM教育の在り方について、市長さんから提言されておりますが、根本的にもう一度見直さなくてははいけないと感じております。

ここ10年を振り返ってみますと、校舎の耐震工事、エアコン整備、トイレの洋式化、また電子黒板を含めたタブレットの整備も他市町村に比べて関市は進んでおりますので、これまでのご配慮に対しこの場を借りてお礼を申し上げます。

また、特別支援教育アシスタントの増員、日本に来られた外国人児童生徒への初期指導をするために、今年度通称フレンズ教室を田原小学校に設置しましたが、画期的なことであったと思っております。先日その教室を訪問しましたが、フィリピン系、ブラジル系、中国系など様々な国の子どもたちが二人の指導員とそれぞれの国の言葉を使って元気に楽しそうに学んでいる姿を見て安心しました。

さて、今回の総合教育会議の協議事項は、「全国学力・学習状況調査における分析結果について」と「熱中症対策について」ということですが、全国学力・学習状況調査の分析結果で「夢」の項目がありますが、前年に比べて良くなっております。これについては、やはり「しかけ」が必要だと考えております。保護者や学校で夢を持つことの大事さや、夢について語り合うという時間をもっと持つように、夢の教育の働きかけをすることが大事だと思います。

熱中症については、熱中症は命に係わることですので、主に運動会の開催の在り方についてということになりますが、根本的に校長会で検討をしております。子どもが対象ですので、安全・安心については慎重にならなければなりません。開催時期について、来年度は多くの学校で春に開催することになるかもしれません。

いずれにしても、子どもたちには夢を持って人生を生きていく、その大切さを今後も教えていきたいと思っております。

○北瀬教育委員会事務局長

ありがとうございました。この会議の進行でございますが、この会議は市長が主宰し行うことになっておりますので、以降の進行は尾関市長にお

願いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○尾関市長

それでは、次第に従いまして、協議事項に移ります。

最初に（１）「全国学力・学習状況調査における分析結果について」を議題とします。それでは、事務局から説明をお願いします。

○加藤学校教育課長

（モニターテレビでプレゼンテーション資料を見せながら説明）

本日の協議事項は、２つです。まず１つめは、今年度の全国学力学習状況調査について、学力と意識調査の結果を、経年比較を基にした分析結果として説明をさせていただきます。

２つめは、近年の異常気象による熱中症対策として、主に小・中学校の運動会・体育大会の実施時期についてと、それに伴う修学旅行等の宿泊研修の実施時期について協議をしたいと思います。

まず、最初に小学校６年生国語の結果です。実施年によって平均点が異なることをご承知おきください。また、昨年度までは知識・活用の２つのカテゴリで実施されていましたが、今年度から一括の学力に変更されましたので、昨年度までの結果についても総合得点に換算して表示してあります。過去３年間、平成２９年度からの経年比較を見ますと、昨年度より関市の学力は全国・岐阜県の平均よりも上回っているという状況です。

続きまして、小学校６年生算数の結果です。過去３年間の経年比較を見ますと、昨年度は関市の学力は全国平均を上回っておりましたが、今年度はわずかではあります全国平均を少し下回っている状況です。全体的にはおおむね良好だと分析しております。

続きまして、中学校３年生国語の結果です。昨年度は関市の学力は全国・県の平均をわずかに上回っておりましたが、今年度は全国・県の平均を昨年度以上に上回っており、良好な状況です。

続きまして、中学校３年生数学の結果です。過去３年間、関市の学力は全国・県の平均を上回っておりますが、今年度は特に平均の差が顕著になっております。

続きまして、中学校３年生英語の結果です。今年度、初めて実施されましたので経年比較はできませんが、関市の学力は県の平均並で、全国平均を少し上回っている状況です。

続きまして、意識調査の結果です。過去５年間の経年比較を説明します。まず自分のよさの自覚についてですが、小・中学生ともに昨年度から全国・県の平均を上回ってきました。よさの自覚は、自分のことを好きになることにつながるとともに、慈愛の精神を育む基盤となると考えています。そういった意味で、関市の結果は好ましい状況にあると考えています。

続きまして、夢や希望、将来への展望です。小学生については、平成３０年度から全国・県の平均を下回りました。今年度は県平均とほとんど同じですが、全国平均よりは下回っています。中学生については、平成２９年度から上昇傾向にあり、平成３０年度から全国・県の平均を上回りました。

たので良好な状況と考えます。現在、市内の中学生がおおむね落ち着いた学校生活を送っていることが推測されますし、学校訪問をしましても落ち着いた様子が見受けられますので、それが数値としても表れていると思われます。

続きまして、自己有用感についてです。これは社会貢献ということ、人の役に立つ人間になりたいかという質問に対して、小学生については平成27年度から全国・県の平均を上回っています。中学生については、平成27年度、平成30年度以外は全国平均を上回っています。同じく自己有用感でボランティアを含め地域行事等に参加したことがあるかという質問に対してですが、この質問は平成28年度から始まり、小・中学生ともに県の平均とほとんど同じですが、全国平均よりは20ポイント以上上回っています。今後も地域の中の学校という位置付けを大切にしながら、地域で活躍できる学校行事や地域行事を創意工夫していくことが重要であると考えます。

続きまして、読書の時間です。1日に30分以上読書をするかという質問に対して、小学生は平成27年度から昨年度まで全国・県平均を大きく下回っていましたが、今年度初めて全国・県平均にほぼ並びました。中学生については、過去5年間において、ほぼ全国・県平均並かわずかに上回っています。

続きまして、コミュニケーションへの意識、自己学習力ですが、これは授業中の発言等への工夫についての子どもたちの意識です。小学生は、過去5年間、おおむね全国・県の平均を上回っています。中学生については、今年度初めて県平均に並びました。教育委員会としましては、学校現場における教師の授業力の向上について啓発等を推進しまして、来年度から実施される学習指導要領にある、主体的で対話的な深い学びに取り組んでいきたいと考えております。

以上のことを簡単にまとめますと、学力の定着について、小学校の学力については、平成30年度より全国・県の平均値を上回っています。今年度もおおむね良好な状況であります。小学校の算数については、市費のわかあゆ非常勤講師の配置により、多くの学校で少人数指導が実施され、きめ細かな指導体制が整備されていることが良い結果につながっていると考えられます。中学校の学力についても、小学校と同様の状況であります。特に今年度は良い状況です。現在市内の中学校在学していることも、中学校の学力の向上につながっていると考えられます。少し補足の説明をさせていただきますと、今年度、市費の非常勤職員については約2億2千万ほどの賃金を支出しておりますが、その中で特別支援アシスタントについては、小学校66名、中学校10名を配置しました。発達障害のある児童生徒が普通学級で少しでも落ち着いて授業に取り組める環境が整備されているということで、学級担任が安心して授業を進めることができます。そして、わかあゆ非常勤講師については、小学校24名、中学校1名を配置しました。特に小学校では、教科担任制の実施をしておりまして、学級担任にゆとりの保障、つまり学級担任に空き時間の余裕が生まれるということになり、自分の担当する授業の工夫改善等に時間を活かすことができ

ます。こういった市費職員の配置が充実した授業づくりにつながっており、学力の定着に寄与していると考えられます。

続きまして、夢や希望につながる自己有用感の育成等、質問紙調査の結果を総合すると、関市の児童生徒は、学校生活の中で、教師から認められたり、励まされたりする指導を適切に受けていると考えられます。少し補足しますと、関市教育委員会の学校経営の基本方針は、夢のある明るい学校です。経年比較からも明らかなように、関市内の小中学校において児童生徒がおおむね明るく楽しい学校生活を送っていることが今回の結果からもうかがうことができました。今後も夢のある明るい学校生活の維持、そして向上に努めてまいります。以上です。

○尾関市長

それでは説明が終わりましたので、質疑やご意見等をいただきたいと思えます。ご意見等はございませんか。まず、全国学力学習状況調査について、ご意見等いただきたいと思えます。

○井藤教育委員

学力の定着についてですが、関市の子どもたちがおおむね落ち着いているということがわかりましたが、中にはそうでない子もいると思えますので、そういった子どもたちへの対応はどうなっているのでしょうか。また、特別支援アシスタントの配置について、何か基準がありますか。

○加藤学校教育課長

最初に、特別支援アシスタントの配置について説明します。まず、各学校から要望を受け付けます。現在の配置数の2倍ぐらいの170名ほどの要望があがります。そして要望があった該当児童については、学校教育課の職員が授業を見に行き、優先順位をつけてから、どこに何人アシスタントを配置するかを決定します。根拠のない配置はできないため、必ず職員が全該当児童の実際の授業を見に行き、見た結果で校長と相談しながら配置決定します。令和2年度には、今年度より5名増員する予定です。すべての要望に応えるのはなかなか難しいですし、実際、発達障害と思われる児童で特別支援学級に入られた方がいいと思われるような児童であっても、保護者がそれを認めず普通学級を希望されることもあります。実際、特別支援学級が望ましい児童が特別支援学級に入れば、もう少し配置状況も変えることができるかもしれませんが、難しいところがあります。

また、おおむね落ち着いているという話をしましたが、発達障害のある児童は授業中に教室を飛び出してしまうことがあります。そういった状況で学級担任が一人だと授業を放り出して追いかけていかななくてはならず他の職員の応援を求めるのも難しいところを、アシスタントが配置されていることで発達障害の児童の対応をアシスタントに任せることで、学級担任は授業を続けることができ、そういった意味では落ち着いて授業時間内の指導ができています。ただ、トラブルというものの多くは休み時間に起きます。子ども同士がけんかをしたりということは日常的にどの学校でも

起きています。

○井藤教育委員

発達障害だけでなく、心に何か抱えているというか、問題行動を起こすような子どももいると思いますが。

○加藤学校教育課長

反社会的な行動を起こす子どももいますし、中学生に多いのですが、別室登校している生徒もいます。そういう子どもたちには、心の相談員を各学校、中学校には1名ずつ配置しておりますので、心のケアの対応をしております。子どもの世界の中でけんかやいじめは起こり得るものだと私は想定しながら、それを少しでも防いだり大きくならないようにということで市費の非常勤の職員を配置していますが、決して完全に平穏な状態ではありません。

○吉田教育長

落ち着きという話ですが、市長さんは時々学校を訪問されますが、そのときに何か変化を感じますか。

○尾関市長

さきほども全般的におおむね落ち着いているという話がありましたが、私が市長になった当初の頃に学校訪問したときと比べますと、やはりどの学校も落ち着いていると感じます。ただ、先日緑ヶ丘中学校を訪問したときに話を聞いたのですが、そもそも学校に登校できていない子がいるということで、そういった子が今後どうなっていくのか、高校にも行けない、家に引きこもったり、どこかに出ても何かに巻き込まれてしまう可能性も出てくるのではないかと考えると、今後のケアを教育委員会だけではなく、家庭事情も含めて福祉的なアウトサイドとの連携が最後には大事だという結論になりますが、そのケアはもっと力を入れていかなければいけないところだと感じています。福祉の方ですと、貧困の問題も含めて国の方針でもありますが、とにかく個別に計画を作って対応を手厚くしていくという方向は出ていますので、関市としても委託をしたりしていますが、やはりうまく完璧に対応できているわけではないので、今後マンパワーもかけていかなければいけませんし、経験も積まないといけませんし、いろいろ課題はあるのですが、教育委員会だけで手の届かないところの子どもたちの問題も含めて福祉と連携してケアしていくことが大切だと思っております。ただ、問題のある子どもが学校にいないで静かで落ち着くということがいいかというそれはまた別の議論であり、将来自分で歩いていってもらわないといけなないので、やはりそのケアが大事だと思います。

○奥村教育委員

教育の目標が、知育・徳育・体育で調和のとれた豊かな人間性を目指すということが大前提の目標だと思っています。その中で、義務教育では基

礎基本の学習の定着、自立できる方向へ向けてということが大切になるということで、今回学力の面について大変いい成績が出たということは、やはり指導の方法にいろいろ工夫がされた結果だと捉えさせてもらいました。手厚い指導がたくさんあったということ、そして今後の教育がSTEAM教育で段々個別になっていくことで、確かにそうなると落ちこぼれがなくその子に合った学力をつけていけるという大変望ましい面に加えて、学校教育の中で大事にしてきた人と人との係わり、仲間や集団の中で育つということが時間的に少なくなってくるのではないかとすることに少し心配をしています。新しい方向に変わるときに大事な基を忘れてしまわないように、その基本的なことだけおさえて次の方向に進んでいただけるといいと感じました。

○田中教育委員

学力については、いいに越したことはないのですが、特に自己有用感や将来の夢などそういう部分の方がより大事かなと思います。いくら勉強ができて、人と人との関係などの方が大事だと思いますし、今の話で市費で非常勤職員を雇用していただいているおかげで学校が落ち着いているということがわかりました。さきほどの教育委員会会議の中でも教員希望者が減少傾向にあるとか質の低下とかの話がありましたが、市として今後も継続して非常勤職員を雇用していただきたいと思います。

○足立委員

社会貢献や地域行事への参加等、自己有用感が高い方であるということがわかりましたが、自己有用感の基になるのは、自己理解つまり自分によいところがあるか、どう自分を認識しているかということの方が大きいかなと思います。自分に良いところがあるという認識をしながらも将来への夢や目標が低いという結果に少しさみしいなと思いました。さきほど教育長の話にもありましたが、夢を語ったり、夢の話聞くという機会や夢を描けるような状況が少ないのかと思ったり、それが家族で言うなら親と子の会話やコミュニケーションが減ってきていることも一因としてあるのかと思うと、学校の中で先生たちが授業の中でとか校長先生の講話の中でなど第三者が語ってあげることが必要なかなと思いました。それがゆくゆくは自己有能の方に行くように私には思えるので、今後も将来の夢や目標などが、暗いものではなく明るい夢が持てるような何かを語ってあげる必要性を感じています。

○吉田教育長

成績がいいというのは、小学校については、関市のポイントは大規模校にかかっています。中学校については、岐阜県全体がいい状況です。私が教育長に就任した当初、いい学校、あまりよくない学校というのは地域性みたいに聞いていましたが、ここ数年ではそういったものはありません。少し荒れていると聞いた学校について先入観がありましたがすべて覆されて、土地柄とか関係なく、教育の力で変わっていくんだということを改め

て思いました。

そして夢の話ですが、韓国・シンガポール・中国についてはすごくポイントが高いです。日本社会は本当に夢がないかという、夢を語る機会がないというか、夢を語ることが恥ずかしいというか、深層心理の中にはちやんとあるんだらうと思いますが、それを言えるような授業、言えるような雰囲気为学校が作っていかなくてはいけないと感じています。

○奥村教育委員

夢や希望についてですが、日本の子どもたちが夢を語って描くということも大事なんですが、目標となるような、モデルとなるような大人があまりにも少ないような気がします。いかがでしょうか。

ああいう大人になりたい、こんな大人になりたいと子どもたちがモデルとしてあげた人はありますか。

○平田学校教育課主幹

そういった調査をしたわけではありませんが、学校現場において子どもたちと話していると、具体的に名前があがってきます。尊敬する人として、お父さんやお母さんをあげる子もいますし、一般的・社会的に有名な人をあげる子もいるので、ゼロではないです。

○田中教育委員

やはりスポーツ選手とかノーベル賞受賞者とかですか。

○平田学校教育課主幹

スポーツ選手も多いですが、中学生ぐらいになると、割と身近な人も多いなという印象があります。

○井藤教育委員

私の友人の娘さんの話ですが、現在高校3年生で、1年生の時に学校の三者懇談で自分の夢を語ったところ、担任の先生から「夢を語ってはいけない。現実を見ろ」と言われたそうです。でも結局その子は高校卒業後に自分の夢に向かって進んでいく道をつかみました。好きなことをずっとやってそれを突き進めたということですが、ずっと夢を語り続けたらちゃんと実現するんだなということを彼女から教えてもらいました。ですので、小中学校で夢を語ったらその先でもずっと語ってほしいなと思いました。

○吉田教育長

市長さんは、高校時代に「市長になる」と言われたときに、家族の方の反応はいかがでしたか。

○尾関市長

自分が言っていただけで、相手にされていなかったと思います。

○吉田教育長

さきほどもありましたが、突拍子もない夢を語ると、大人は心配になって「やめておけ」となるのでしょうか。

○尾関市長

ある意味、自分はなるんだという思い込みの世界ですからね。私も自治基本条例の出前講座で中学校4校ほど訪問しましたが、そのときに自分の高校時代の話をしました。夢や目標を持って両親や学校の先生から言われると思いますが、自分の場合は高校時代に市長になると決めていたので、今皆さんの前に市長として立っていると思うので、夢や目標があった方がいいか、ない方がいいかと言ったらやはりあった方がいいという話をしました。少しでも子どもたちに伝わればいいなという思いで話しています。

では、そのほかにご意見等ございませんか。

なければ、「全国学力・学習状況調査における分析結果について」を終了します。

次に(2)「熱中症対策(学校行事の時期の見直し)について」を議題とします。それでは、事務局から説明をお願いします。

○加藤学校教育課長

(モニターテレビでプレゼンテーション資料を見せながら説明)

では、2つめの協議事項である熱中症対策について説明させていただきます。最近、地球温暖化に伴って高温になったとよく聞きますが、本当に数値のうえでそういう状況になったのかということで、1919年からの過去100年間の35℃以上の猛暑日の日数が何日あったのかという調査結果を見ますと、1995年を境にして猛暑日が非常に増えています。私自身が小中学校時代を過ごしたのは、1970年代なのですが、この表を見ますとやはり少ないです。35℃以上の猛暑日が増加しているのがこの20年ほどなので、地球温暖化が叫ばれるようになってから20年ほどが経過したことになるのかなと思います。なおかつ、昨年度の35℃以上の猛暑日が34日と過去最多で、今年度が24日ですので温暖化が加速していると考えられます。

次に、過去8年間の8月20日から9月30日までの1日の最高気温の推移です。これを見ますと、この8年間で9月中旬を過ぎても30℃を超える夏日があるということがわかります。

次のグラフは、さきほどより少し期間が短く9月における1日の最高気温の推移で過去10年間を表しています。これを見ますと、9月中旬まで屋外で運動すると危険である32℃以上の日がかかなり多くあることがわかります。ですから、9月中旬に実施される中学校の体育大会の開催時期と重なっていることがわかります。

続いて、過去3年間の7月から9月までの1日の最高気温の推移です。これを見ますと、7月より9月の方が高温になっています。感覚としては、7月・8月と暑くて9月になると少し涼しくなるという感覚があったので

すが、実際には9月の方が暑く、特に今年度は9月下旬に開催された小学校の運動会が気温32℃を超える危険な状態で実施されたことがわかります。

次は、過去10年間で1年おきですが9月の32℃以上の日数を表したグラフです。これを見ますと、今年度の日数が実に15日ありました。気温32℃を設定しましたのは、環境省から32℃を超えると屋外で運動するには危険だと通知されているということからです。この結果から、小中学校の運動会・体育大会の実施について検討する必要性があるということが今年度特にクローズアップされたわけです。

続きまして、過去10年間の9月15日から30日までの降雨日についてのデータです。これを見ますと、偶然かもしれませんが、9月24日から27日までは降雨確率が低いことがわかります。この期間に中学校の体育大会、10月に小学校の運動会を開催するののもひとつの方法かなと考えております。

最後に、猛暑に伴う学校行事への対応ということで4つにまとめました。1つめに、1995年頃から、猛暑日の日数が増加し、特に昨年と今年については、異常高温の状態であること。2つめに小中学校の運動会・体育大会の実施時期である9月下旬まで、ここ数年は異常高温が頻発しており、学校行事の根本的な見直し等の検討が必要であること。3つめに、環境省の通知によると、児童生徒が屋外で活動するうえで危険な気温は、32℃以上とされており、特に今年度は、9月中の32℃を超える日が15日もあったこと。4つめに、運動会・体育大会の開催時期として、今後小学校においては10月上旬、中学校においては9月下旬が望ましいため、校長会等で検討し、改善を図る必要があるということです。秋開催を考えたときに、幼稚園や保育園との連携もしていかないといけないですし、なかなか難しいです。春開催にすると、今度は修学旅行の時期を変えなければなりません。運動会が春開催の学校は、修学旅行が秋にありますし、運動会が秋開催の学校は、修学旅行が春に行われます。運動会の開催時期をひとつ動かすだけでも、学校にとってはこういった宿泊研修などの大きな行事を見直さないといけなく、根本的に、運動会の時期をずらすという単純な論理で進めることができません。また、時期をかえなければいけないと教育委員会として強く通知するというのもなかなか難しいです。今年度から校長会の中にある課題検討委員会で、来年度は特に学校行事の総合的な見直しということで検討を進めていく予定でおります。ただ、今年度は熱中症の対策として午前中だけ開催して終わる学校がかなり増えてきました。これについては、保護者の方からもいろいろな意見をいただいております。なぜ一緒にお昼ごはんがたべられないのか、中学生なら少しくらい暑くても我慢できるのではないのか、子どもを甘やかしているのではないのか、などいろいろな意見をいただいておりますが、やはり子どもの命の保障が一番大事ですので、今後このことについては本格的に学校のカリキュラムも含めた検討が必要になってくると考えております。以上です。

○尾関市長

それでは、説明が終わりましたので、質疑やご意見等をいただきたいと思ひます。ご意見等はござひませんか。

○奥村教育委員

行事については、各学校で検討されると思ひますが、この資料を見て気温が変わってきいてるということがわかるのですが、40年、50年ほど前の運動会は10月開催だった記憶があります。それが段々早くなって9月開催になった理由としては、秋には落ち着いて学習に取り組む時期を作るということでした。そういったことを考えると10月開催でもいいと思ひますが、運動会だけでなく、全体の行事の時期を見直すということなんですね。

○足立教育委員

オリンピックも10月10日でしたからね。運動会を10月開催にしようという話は出たことはないのですか。

○加藤学校教育課長

校長会では、保育園との連携もあるのでやるのであれば9月開催はやはり難しいだろうという話が出ています。後ろにずらすか、春開催にするかということになると思ひます。今年度、関市の小学校で運動会を春開催にした学校は全部で3校でした。私自身が校長をしていた小学校では、春開催でしたが、それほど熱中症の心配をしなくて済みました。4年前には、6校が春開催でしたが、春では指導の時間が短すぎて準備ができないという意見等があり、あえて9月開催に変更した学校もあります。私は、小学校については春開催を検討してもいいのではないかとと思ひます。

○吉田教育長

ちなみに高校の体育大会は、関商工が10月開催、関高校が9月の3日か4日頃の開催です。

○井藤教育委員

中学校の午前中開催については、基本的に賛成です。できれば土曜日ではなく、平日に開催してほしいです。その理由は、保護者の方も小学校に比べるとあまり見に来られない方が多いですし、雨天順延になった場合に、お弁当と給食がどうなるかということ戸惑う保護者の方もみえるからです。小学校については、やはり見たいと思われる保護者の方が中学校に比べると多いでしょうし、個人的には小学校も午前中のみの開催でも問題ないと思ひます。やはり暑さのことを考えると、見ている方も大変ですし、子どもの身体への負担のことも心配です。

○加藤学校教育課長

まずは、中学校の平日開催についてですが、基本的に学校行事について

は学校が決めることですので、教育委員会で決めることはできません。岐阜市では30年ほど前から平日開催です。そのため、雨天順延もやりやすいですし、運営としてはそれも1つの方法かなと思います。ただ、保護者の方からいろいろな意見がありますので難しいとも思います。小学校の午前中のみ開催については、学校の規模によっては、小規模校ですと1日もできないということもあります。逆に大規模校が午前中のみということになると1学年1種目しかできないということもありえます。ですので、学校長が実情に応じて開催するということになると思います。教育委員会としては、熱中症対策に万全を期して運動会・体育大会を開催してくださいと通知することはできますが、半日開催を限定するという事は難しいので、各学校が実情に応じてすすめていくようにしていただきたいと思えます。

○井藤教育委員

自宅の近くに小学校があり、今年初めて半日開催になったと思いますが、そこから子どもたちの応援練習の音がすごく聞こえてきたんですが、とても力が入っていて、半日になっても運動会の質はきっと変わっていないんだろうなと感じました。学校の規模にあわせて開催していただくのがいいかと思えます。

○田中教育委員

今年の10月に台風の関係で刃物祭りが中止になったので、11月開催にしたかどうかという意見があり、検討しています。しかし、日程がたくさんつまっているため今のまま10月でという意見や予備日を作ったらどうかという意見もあります。運動会を10月開催にすると、さきほどの保育園の関係や見に来る保護者の予定など10月はいろいろな行事があるので、そういうことも含めると私はどちらかという春開催がいいかと思えます。

○足立教育委員

今までの話を聞いていますと、春開催の検討もありかなと思います。平日の開催についても、10月頃は市や他団体等の行事がたくさんありますので、学校の行事として平日開催も検討してもいいのではと思います。学校の規模や要望にもよるとは思いますが、検討に値するのではないかと思います。

○吉田教育長

今までに関市で平日開催した学校の例がありますか。

○加藤学校教育課長

雨天順延でやった例はありますが、それ以外ではないです。

○吉田教育長

ということは、地域の方にとって平日開催は抵抗があるということですね。

○田中教育委員

さきほどの話にもありましたが、中学校は保護者が見に来るのも少ないですし、子どもたちも見に来なくていいと言う子もいますが、小学校については、特に低学年の子どもの保護者は見に行きたいと思う方が多いと思います。ですから平日開催は少し厳しいのかなと思います。

○尾関市長

今後、校長会で来年度検討して、実施は再来年度ですか。それとも来年度から時期をずらすという考え方ですか。

○加藤学校教育課長

今年度については、すでに時期をずらすことは難しかったので、平日開催とか種目を減らす等の工夫をしました。校長会で来年度に検討をしていかななくてはならないということで、関市では今年度まで、中学校は同一日に、小学校については、2週に渡って開催ということでやってきましたが、来年度については各学校長の判断になると思います。しかし、小学校で平日開催というのはなかなか難しいと思います。保護者の方々に納得していただけるような説明ができるかどうか、子どもたちの命の危険という理由だけで平日開催というのは難しいので、これについては大きな課題であると考えています。そして、さきほど田中委員も言われたように、地域の行事等、大人の行事もありますので、開催時期をずらすとしたらよほど事前にいろいろな関係機関と連携をとってやっていかないと難しいと思います。学校単独の判断では、土日に開催する場合は調整が必要だと思いますし、学校都合でやるとするならば平日に開催するのもいいかもしれませんが、よほどの覚悟が必要かと思います。

○吉田教育長

1年ほど前に、運動会を平日開催したことについて議会で質問がありました。家族でお昼ご飯を食べるのを楽しみにしていたのにという質問でしたが、平日にという話になるとまた質問があるかもしれません。議会の質問の有無にかかわらず、市民の皆さんがそのように感じられているということは確かでしょうから、私も小学校の平日開催は少し難しいのではないかと思います。さしあたって、中学校から慣らしていった方がいいと思います。ただ、私がこの熱中症の問題に関して一番心配していることは、体育大会当日に熱中症で子どもが死亡するという最悪の事故が起きた場合には、もう9月開催はできなくなると思います。そういうところまで待たなくてはいけないのか、これだけ危険な中であえて9月に開催する必要があるのかということを考えると、私自身、困っているところです。ただ子どもにとってのことを考えると変えざるを得ないのではとも思い、強い気持

ちで私たちの方から校長会にお願いをしていますので、何か大きな変化が起きるだろうと思っています。

○井藤教育委員

猛暑で救急搬送されるということもあるかと思いますが、その基準はありますか。

○加藤学校教育課長

今年、武芸川中学校で救急搬送される事態がおきまして、救急車が4台来ました。保健室で休ませていて、本当に救急搬送が必要だと思われる生徒は1人でしたが、ほかにも休養していた生徒が3人おり、連絡ミス等で4台来てしまいました。基準というのが特にはないのですが、養護教諭が呼吸や体温、心拍数などを見て判断しますが、これといった基準は示されていません。

○尾関市長

ほかに、ご意見等はございませんか。

なければ、「熱中症対策（学校行事の時期の見直し）」について」は終了します。

次に（3）「その他」でございますが、教育委員の皆さんからご意見がございましたらいただきたいと思います。

なければ、井藤委員さんが本日最後ということですので、ひとこといただきたいと思います。

○井藤教育委員

今日で無事に教育委員としての務めを終えることになります。初めての経験でいろいろと初めてのことばかりでしたが、こういう組織があること自体も知らなくて、たまたま市のPTAの役員をやっていたのでそちらから声をかけていただいたのですが、本当に何をしたらいいのかわからない状態で今までできました。子育てをしながら、学校の先生方がどんなことを考えて、どんなことをやろうとしているのかがすごく近くでわかることができたのが、教育委員をやらせていただいてよかったことだと思います。何もできませんでしたがお世話になりました。ありがとうございました。

○尾関市長

ありがとうございました。

それでは、ほかにご意見等が無いようですので、本日の協議事項は全て終了しました。ありがとうございました。

○北瀬教育委員会事務局長

それでは、以上で令和元年度総合教育会議を閉会といたします。

皆さまには貴重なご意見、活発なご協議を誠にありがとうございました。また、井藤委員さん、長い間いろいろとありがとうございました。お身体

に十分気をつけていただいてまたいろいろなご意見等いただけると幸いに存じます。

今日は皆さまお疲れさまでございました。ありがとうございました。